

フィリピン遠征報告書

17才以下男子 古村 賢太 (甲南高等学校)

僕はフィリピン遠征の選手に選ばれたと聞かされた時は、驚きと嬉しさと同時にとても光栄に思いました。しかし、僕は初めての海外遠征なので出発するまでの日々は期待と不安でいっぱいでした。

1月2日いよいよ出発です。まだ、朝日も昇らない真っ暗な中自宅を後にし関西国際空港に向かいました。今回の遠征ではテニスは勿論のこと外国の人達との関わり方やフィリピンの文化など、沢山学びたい事がありました。そんなワクワクした気持ちを持ちながら日本を飛び立ちました。まず、マニラ国際空港に着いてからの第一印象は「暑い!」。真冬の日本から真夏のフィリピン。温度差はどれ位あるのだろう?と思いました。空港からホテルに向かい、そこで初めてホストファミリーの方と対面しました。

僕がマニラでお世話になるホストファミリーは「マットさんとネットさん」。とても優しい笑顔で僕達を向えてくれました。僕の遠征での気がかりは、ホームステイ先で自分の語学力で通じるのか……。しかしマットさんは、僕の緊張を知っているかのように、ゆっくり解りやすい英語で話しかけてくれました。過去の代表選手を全員覚えていて僕達に色々なエピソードを教えてくれました。フィリピンの人達はとても明るく陽気なので、僕の緊張もいつの間にか無くなっていました。

遠征2日目から6日目はフィリピンのジュニアとトレーニングや試合をしました。フィリピンのコートはシェルコートとハードコートが中心のようです。日本のようなオムニコートはありません。シェルコートとは、クレークコートに貝殻をまいたコートです。思った以上にボールがよく跳ねます。クレークコートのようなイレギュラーはあまりなく、僕はシェルコートに慣れるのにあまり時間は掛かりませんでした。フィリピンのトレーニングは日本と違い楽しみながらする事ができました。本当にフィリピンの人達はテニスのプレーやトレーニングも楽しみながらしていました。僕も含めて日本のジュニアも見習いたい事だと思いました。毎日の練習や試合で感じた事は外国の人達は僕に無いものを沢山持っていました。まず、メンタルやフットワーク。体は小さいけどハードヒッターの人も多く、とても粘り強い選手も沢山いました。マニラやセブ島のジュニアも力強いテニスで圧倒される選手もいました。

遠征7日目、今日でマニラとお別れです。7日目から9日目はセブ島に移動です。セブ島のホストファミリーは「ラグマンさん」です。ラグマンさんもマットさん同様僕達に優しくしてくれました。到着した日は、セブ島の観光に行きました。セブ島はマニラの中心部とは違い、リゾート地のような所で、少しの間テニスの事は忘れてお土産を買ったり観光を楽しみました。今回の遠征ではテニスだけでなく、英会話の勉強やウエルカムパーティ、海やプールでリゾート気分を味わえたり、色々な体験をさせて頂きました。本当に貴重で楽しい時間を過ごす事が出来ました。

遠征10日目、いよいよ帰国です。今回の遠征中に印象に残った事は、フィリピンの人達の貧富の差です。ホストファミリーの方のように、大きな家に住み何台もの車があり、家政婦さんが何人もいるような豊かな生活をしている人達もいれば、街中で幼い子供が車の窓を叩きお菓子や食べ物をねだってくる光景は信じ難いものでした。コートには必ずボールボーイがいたり、全てが日本では見ることの出来ない光景でした。僕は日々当たり前のように学校に行き、テニスをしたり、お腹が空けばいつでも食べる物がある。このような生活を送る事は日常的な事で、感謝をする気持ちを忘れていたように思います。改めて両親に感謝したいと強く思いました。

最後になりましたが、坂本会長を始め兵庫県テニス協会、フィリピンテニス協会、引率して下さいだったコーチ、神戸新聞記者の小川さん、マニラ、セブ島のホストファミリー、そして甲南高校の先生、コーチ、家族の皆に感謝しています。本当に有難うございました。

今回の遠征で自分の足りない物を見つける事が出来ました。この貴重な経験を今後のテニスに最大限生かしていきたいと思えます。

